

## 船舶事故調査報告書

令和2年6月3日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）  
委員 田村 兼吉  
委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（令和元年6月18日 18時00分ごろ以降）
発生場所	島根県大田市和江漁港北方沖（機関長が発見された場所） 和江港沖防波堤南灯台から真方位349° 6.4海里（M）付近 （概位 北緯35° 19.2′ 東経132° 26.3′）
事故の概要	漁船第六十六浦郷丸は、航行中、機関長が落水して死亡した。
事故調査の経過	令和元年7月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第六十六浦郷丸、228トン 130848、浦郷水産株式会社（A社） 49.95m×8.40m×4.00m、鋼 ディーゼル機関、1,071kW、昭和63年12月23日
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和52年9月22日 免状交付年月日 平成29年3月6日 免状有効期間満了日 令和4年3月19日 機関長 男性 41歳 五級海技士（機関）（履歴限定、機関限定） 免許年月日 平成10年4月2日 免状交付年月日 平成30年3月23日 免状有効期間満了日 令和5年4月1日
死傷者等	死亡 1人（機関長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約0.5m、うねりの方向 北西、うねりの高さ 約2m、水温 約20.2℃（6月18日23時ごろ） 日没時刻：19時28分ごろ
事故の経過	本船は、船長、機関長及び一等機関士ほか甲板員2人（以下それぞれ「甲板員A」及び「甲板員B」という。）が乗り組み、砕氷約17tを積み、A社所属船5隻と共に船団を組んでまき網漁を行う目的で、令和元年6月18日13時30分ごろ島根県浜田市沖に向けて境

	<p>港を出港した。</p> <p>船長は、単独で船橋当直に当たり、約12～13ノットの対地速力で手動操舵により南西進中、和江漁港北方沖約7Mに至った18時00分ごろ、甲板員Aから機関長が船内に見当たらない旨の報告を受けたので、機関長を捜索することとした。</p> <p>本船は、船長が、微速力前進に減速して針路を反転し、GPSプロッターの航跡に沿って北東進しながら捜索を始めた。</p> <p>本船は、船長が、単独で操船に当たりながら、甲板員Aに乗組員全員で再度、機関長の船内捜索を行うよう指示するとともに、A社に機関長が行方不明となった旨を携帯電話で連絡し、GPSプロッターの航跡に沿って北東進を続けた。</p> <p>船長は、18時05分ごろ甲板員Aから、やはり機関長が船内に見当たらないとの報告を受けたので、甲板員Aを船首甲板右舷側に、また、甲板員Bを同甲板左舷側にそれぞれ配置し、機関長の捜索に当たらせ、自らは単独の操船を続けた。</p> <p>甲板員Bは、本船が和江漁港北方沖約7Mに至った18時10分ごろ、左舷前方約30°約700m先の海上に両手を上下している人影を見たので、船橋を振り返り、船長に対して身振りでその場所を知らせ、再度、左舷前方を見たが、人影が波間に消えて見えなくなった。</p> <p>船長は、船橋からマイクで甲板員Bの報告を了解した旨を伝えるとともに、その場所に本船を向け、付近の海域を幾度も往復しながら捜索を行った。</p> <p>A社社員は、18時11分ごろ118番通報し、機関長の捜索を依頼した。</p> <p>本船は、海上保安庁（巡視船2隻及びヘリコプター1機）及び僚船33隻と共に機関長の捜索を行ったが、機関長の発見に至らず、行方不明となり、22日14時00分に捜索活動を終了した。</p> <p>機関長は、10月11日小型底引き網漁船に和江漁港北方沖約6.5Mで発見され、後日、DNA鑑定により機関長であることが確認されたが、死因は不詳と検案された。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図、付図2 事故発生経過概略図（拡大） 参照）</p>
その他の事項	<p>機関長の救命胴衣は、船内に残っていた。</p> <p>海上保安庁は、18日20時45分ごろから21日24時までの間、巡視船2隻及びヘリコプター1機による捜索を行った。</p> <p>本船は、本事故当時、右舷方から北西風及び北西方からのうねりを受け、ふだんよりも大きくローリングしていたので、乗組員が壁や手摺に片手を沿えて身体を支えながら船内を移動している状況であった。</p> <p>本船は、船尾甲板の両舷側及び船尾端に沿って高さ約0.9mのハ</p>

ンドレールが設置されていたが、両舷側及び船尾端のボラードが設置されている箇所に約0.9mの切れ間（以下「ハンドレール切れ間」という。）があった。

本船は、ボラードを使用しないとき、船尾甲板のハンドレール切れ間に転落防止のチェーンを張るようにしていたが、本事故当時、船尾部及び左舷側の2か所でチェーンが張られていなかった。

本船は、船尾甲板から中央甲板へ通じる階段が同甲板前方の両舷に設置してあるが、転落防止の索やチェーン等が設置されていなかった。

乗組員は、機関長が、居室からトイレへ行くのに階下の機関室まで降りて左舷後部まで移動する必要がある、これまで、小用であれば、船尾甲板の風下側の舷側でハンドレール切れ間から用を足す様子を目撃したことがあったので、本事故当時も同様にしていたのではないかと本事故後に思った。

一等航海士及び甲板員Aは、ふだん、機関長が、本船の航行中に暴露部である船尾甲板を移動して自室と食堂との間を往来する様子を目撃していた。

一等機関士及び甲板員Aは、本船が境港を出港した後、2人で居住区画の食堂でソファに座って休息していたところ、機関長が、船尾甲板のコンパニオン階段から幾度か厨房や食堂に出入りし、自身の食事の用意や後片付けをしている様子を目撃した。

乗組員は、本事故当時、機関長が疲労した様子も飲酒している様子にも見えず、また、機関長から航行中に整備作業等を行う旨も聞いていなかった。

船長は、出港して甲板員Aからの報告を受けるまでの間、船橋に居て専ら前方を見ていたが、居住区画から前部甲板にかけて移動する人影を見掛けなかった。

甲板員Bは、16時30分ごろ当直を終え、居住区画の食堂に降りた際、機関長、一等機関士及び甲板員Aが食堂のソファに座っているところを目撃した後、居室に入り、同じころ、一等機関士が居室に入り、また、甲板員Aが食堂のソファで横になり、それぞれが就寝した。

本船では、一等機関士、甲板員A及び甲板員Bが就寝して以降、機関長を船内で目撃した者がいなかった。

甲板員Aは、17時50分ごろふと目が覚め、食堂の左後部にあるトイレに行こうと思い、居住区画の船尾部にある洗濯室に入ったところ、船尾甲板のコンパニオン階段の入口の内壁に結束バンドで強く固定してあった小物入れが同階段下の洗濯室の床に落下している状況を見た。

甲板員Aは、船内の整理整頓を行っている機関長に事情を聴こうと

居住区画及び機関室を探したが、機関長が見当たらず不安を感じたので、一等機関士及び甲板員Bを呼び起こした。

一等機関士及び甲板員Bは、居室で就寝中、甲板員Aに呼び起こされ、甲板員Aと共に3人で居住区画及び機関室を探したが、機関長が見当たらなかったため、甲板員Aが昇橋して船長に報告した。(図1参照)

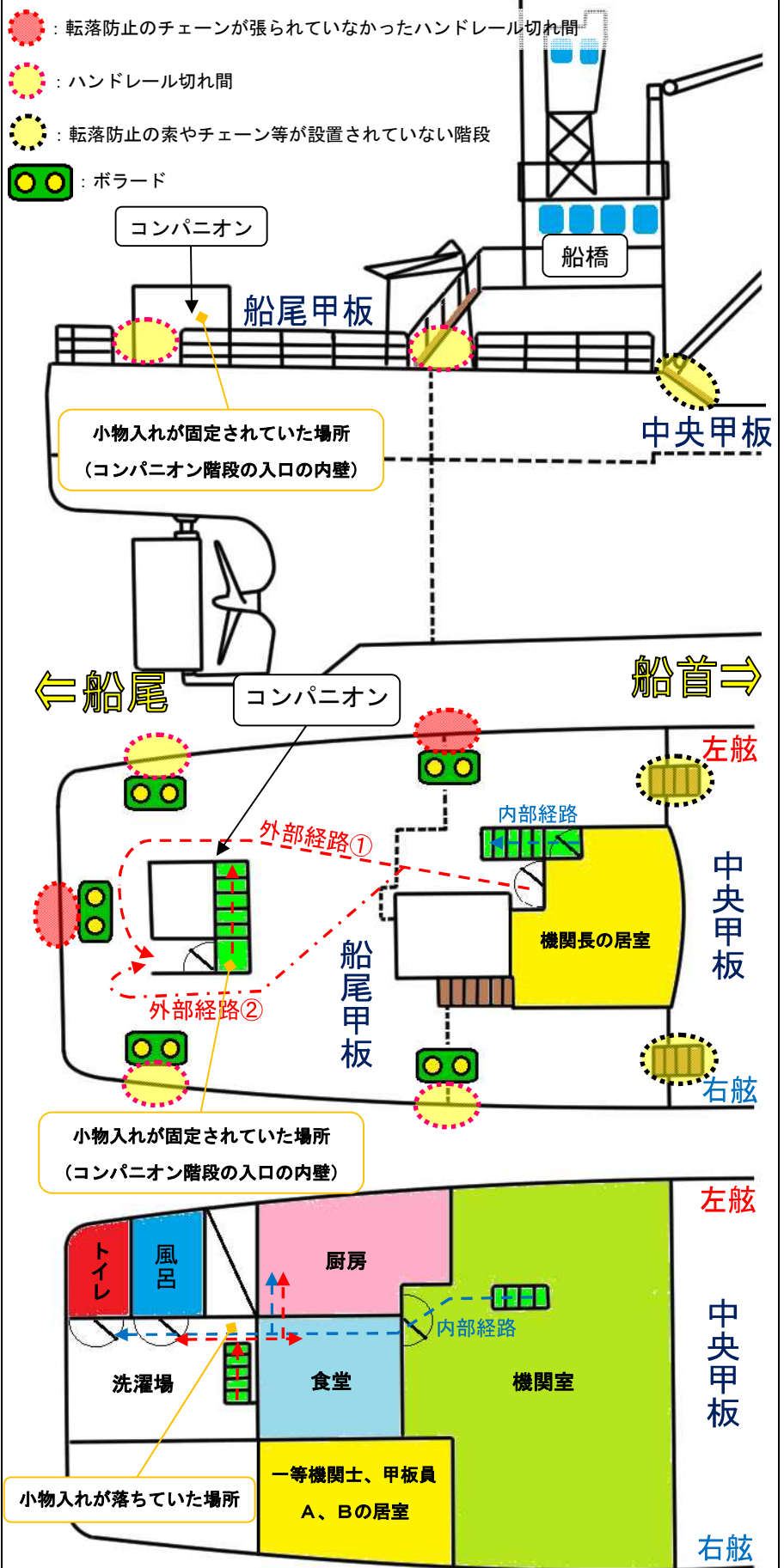
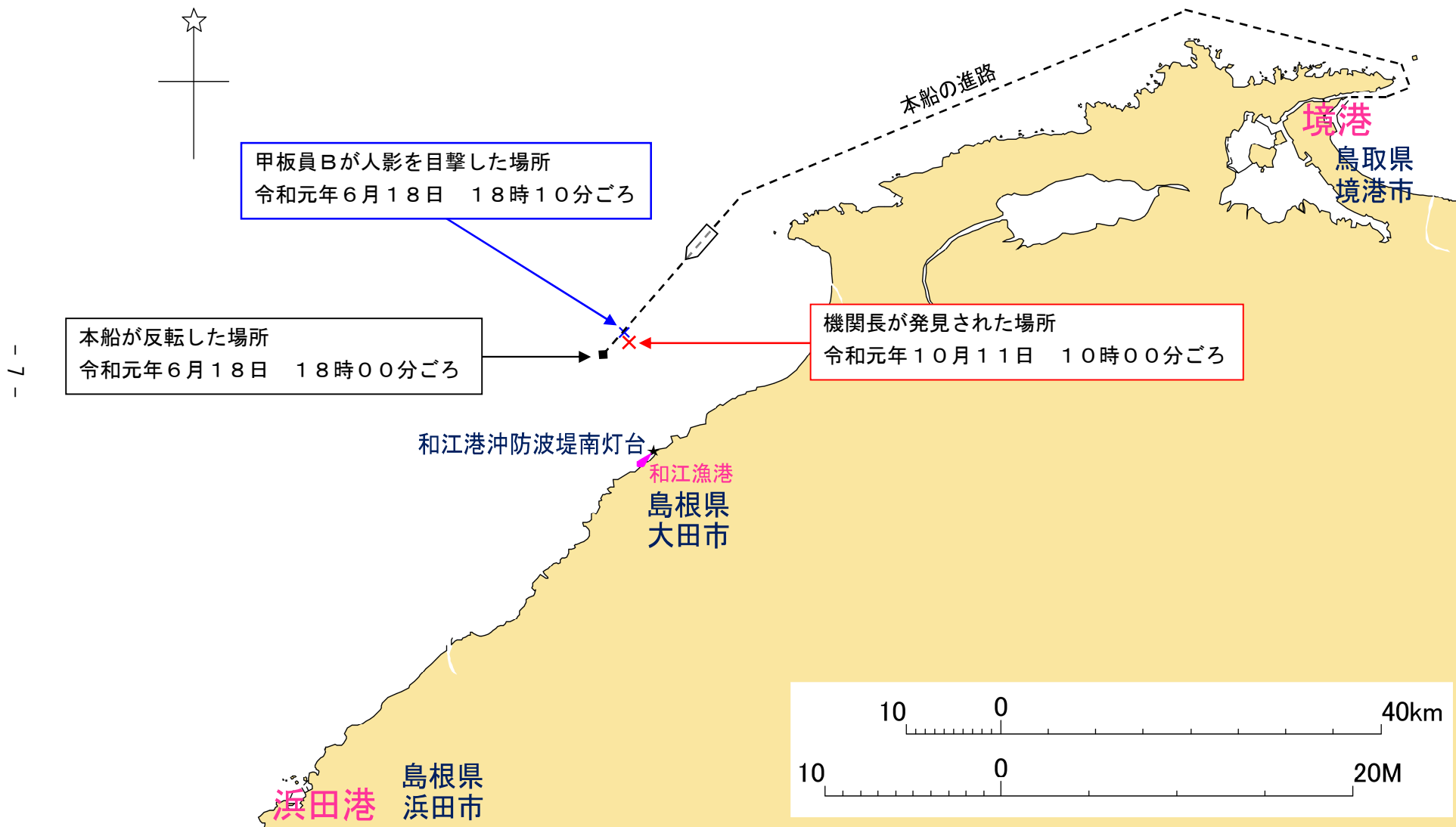


図1 居住区画及び機関室の移動経路図

<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>機関長の死因は、不詳であった。</p> <p>本船は、和江漁港北方沖を南西進中、機関長が落水して死亡したものと考えられる。</p> <p>機関長は、16時30分ごろ食堂で一等機関士、甲板員A及び甲板員Bに目撃された後、18時00分ごろ甲板員Aが機関長を探し始めるまでの間に落水した後、死亡したものと考えられる。</p> <p>機関長は、本船が大きくローリングしている中、ふだんどおりに船尾甲板のコンパニオンの階段を通過して食堂に出入りしているところを乗組員に目撃されていることから、暴露部である船尾甲板を移動して落水した可能性があると考えられるが、目撃者がいないことから、その状況を明らかにすることができなかった。</p> <p>機関長は、救命胴衣が船内に残っていたことから、落水時に救命胴衣を着用していなかったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、和江漁港北方沖を南西進中、機関長が落水して死亡したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗組員は、船体が動揺している場合、落水の危険がある暴露部を移動しないこと。</li> <li>・乗組員は、船体が動揺するなか暴露部を移動する必要がある場合、救命胴衣を着用すること。</li> <li>・乗組員は、チェーンや索をハンドレールの切れ間等に張り、暴露部からの転落防止に努めること。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図



付図2 事故発生経過概略図（拡大）

